

KOCHI 2023 ROTARY 2024 CLUB SINCE 1937



世界に希望を生み出そう
2023-24年度 RIテーマ

週報



Weekly report

第3577回
第3578回

2024年2月13日
2024年2月20日

2024年2月27日発行

● 会長挨拶



皆さん、こんにちは。私は毎年恒例で、ニセコにスキーに行っていますが、今年行って思ったのは、日本の中でもピンポイントで世界の投資が集まっているなということです。ニセコは4つのスキー場がありますが、その中でも欧米の投資が集まっているエリアがあって、ホテルなどは欧米だけではなく、タイやインドネシアのホテルやコンドミニアムがあったり、投資が進んでいます。私が出たわけではありませんが、イーロン・マスクも来ていると言っていましたので、どれぐらいのレベルで進んでいるか想像がつくと思います。

去年と今年でもまた変わっていて、世界の金が集まるというのはこういうことなのかと。例えばゴンドラはヴィトンのラッピングをしているし、ハンバーガーが2,000円、カレーライスは3,000円、何だこれ？みたいな世界です。ちょうど私が行ったとき、隣の北海道新幹線が通る倶知安駅の駅舎のデ

ザインが発表になっていました。今は何もない所ですが、新幹線が通るようになると、さらに投資を呼び込むことになるだろうなと思いました。

ニセコの町の中心は、高知でいえば野市のようなイメージです。4年前、仕事柄、大体どれぐらいの値段で土地が動いているか聞いてみると、1坪200万円。今は1坪300万円。一つ裏へ入った別荘地の300坪が売りに出ていましたが、3億円です。スキーに来ている方も、ハイブランドのスキーウェアを着て、ブルガリのゴーグル、シャネルのグローブ等々。ここは日本ではないんだという感じです。

戻ってきて10日も経ちますが、腰が痛くて、毎日薬を飲んで湿布を貼って、ずっと家にいましたが、今日は諦めて整形外科へ行きました。レントゲンも撮って、骨に異常はないことが分かりましたが、年とともに軟骨がすり減ってきて、それが触っているんだということで、ドクターからは「中澤さん、年の割には元気だけど、もう少し身体づくりを続けていけば、毎年スキーもできるんじゃないですか」というお話をいただきました。



■ 本日のプログラム [2月27日]

新会員スピーチ
(株)西岡寅太郎商店 取締役
西岡 剛 会員
「お酒と歩んで」

会 長	中 澤 陽 一
副 会 長	中 島 和 代
幹 事	細 田 長 司
副 幹 事	入 交 英 太
会報責任者	小 林 達 司

2月13日 例会

● **ロータリーソング** 「それでこそロータリー」

● **来訪ロータリアン及びお客様**

米山記念奨学生 シティ ロダトゥル ファディラさん



● **幹事報告**

- ・理事会の議事録をボックスに入れていただきますのでご覧ください。
- ・能登半島地震災害義援金は、1人5,000円（4月発行の請求書に添付）とクラブから足して合計50万円とすることを理事会で了承しました。



● **米山記念奨学生のシティ ロダトゥル ファディラさんに奨学金をお渡ししました。**

● **ゲストスピーチ**

日本への旅：自己紹介と研究

米山記念奨学生
シティ ロダトゥル ファディラさん



私の名前はシティ ロダトゥル ファディラですが、苗字はありません。インドネシア人には苗字がないのが一般的です。家族は多くて、両親と兄、姉、妹、弟、そして夫がいます。現在、高知工科大学の博士課程3年生で、交通工学を勉強しています。

インドネシアは世界で4番目に人口の多い国で、2億7,000万人を超えています。500の民族と700以上の言語があります。主な島はスマトラ、ジャワ、カリマンタン、マルク、スラウェシ、バリ、パプアです。私のふるさと南スマトラのパレンバン市でインドネシアで最も古い都市の一つです。ムシ川によって2つに分かれて、アンペラ橋で接続されています。パレンバン市は石油、天然ガス、石炭などの天然資源で有名で、ムシ川には多くの物流船が行き交います。

パレンバン市で最も人気のある伝統料理はペンペクで、甘酸っぱいソースが添えられていて、揚げ物、スープやタマゴ・エビ・ココナッツミルク入りなど、様々なバリエーションがあります。現在、ペンペクはパレンバン市だけでなく、ジャカルタ市や他の都市でも簡単に見つけることができます。

私が日本に来る前に働いていたバンドン市は、ジャカルタ市とスラバヤ市に次いで、インドネシアで3番目に人口の多い都市です。グドゥン・サテは、バンドン市の古いランドマークです。グドゥン・サテは、インドネシアの有名な料理であるサテからきており、サテは、味付けされた肉を串に刺し

てグリルし、ソースを添えた料理です。また、バンドン市はインドネシアの美食の楽園として知られています。メインディッシュから軽食、デザートまで様々な伝統料理があり、アジアで最高の伝統料理を提供する都市、トップにランクされています。その中で、最もスコアの高い食べ物はバタゴールです。バタゴールは、揚げた魚のお団子で、ピーナッツソースが添えられています。バンドン市は素晴らしい自然環境で人気の観光地でもあり、ジャカルタ市内からも近いので、週末は訪れる人も多いです。私は、大学課程に入学したため、2013年に西ジャワ州のバンドン市に引っ越しました。

私はバンドン工科大学を卒業しました。大学時代は土木工学を専攻、大学院では交通工学の専門分野を研究しました。大学院に通っているとき広島大学で6か月間、交換留学生になる機会を得ました。日本に来たのは、それが初めてでした。広島大学の交通工学教室に入学し、多くの素晴らしい先生や素敵な友達に出会いました。今も学会で会ったりメールで話しています。そのときに出会った先生の一人が、私の博士号学位審査官です。

日本とインドネシアの行動にいくつかの違いがあります。日本人は、挨拶とお辞儀をしますが、インドネシア人は握手をします。日本では病院や友人の家を訪ねるとき様々な予約が必要ですが、インドネシアでは、特に家族の家なら予約なしでも訪問できます。インドネシアでは、歩きながらお菓子や飲み物を食べる人をよくみかけます。日本ではラーメンをすするのはおいしさの表現ですが、インドネシアでは無礼だと見られます。

日本について、私が最も印象に残っていることは3つあります。

まず、ゴミ箱がほとんどないけれど、清潔で整頓されていること。次に、日本の夕日はとても美しいです。私の携帯電



話は日本の素晴らしい空と夕日の写真で一杯です。3番目に秋は私の一番好きな季節です。日本ではいろんな所で紅葉を見ることができます。

日本の中で好きなのは日本庭園とお城です。そして、もちろん美味しい料理です。日本庭園は季節ごとに新しい景色に変わります。お城は訪れるべき魅力的な場所です。でも、最も好きなのは食事で、いろいろな日本食を試すのがとても楽しいです。

現在、高知工科大学の都市交通計画研究室に所属しています。コロナによって、予定より1学期遅れて2022年4月に高知にきました。研究テーマは「二輪車依存都市における交通管理システムの解析」です。このテーマを研究するきっかけは、インドネシアにおける現在の交通問題にあります。人口千人当たりのバイク所有率は、台湾、ベトナム、タイ、マレーシアと並び、世界で最も高い国の一つであり、50%を超えています。政府は公共交通機関に移行させるために、いくつかの取り組みを行ってきましたが簡単なことではありません。より大きなステップに進む前に、まず彼らの行動を調整する必要があります。

インドネシアの慢性的な交通渋滞を緩和するためには、より優れた交通管理システムが必要で、重要なのは高度道路交通システムです。ジャカルタ市を含め、この制度をまだ完全に導入していません。交通渋滞の緩和に効果的であることが実証されているデバイスは、道路脇の電子標識及び情報です。そのため、私の研究では、インドネシアにおけるドライブメッセージサインと国家について分析します。まず、バイクがどのようになると混むのかを分析し、新しい交通管理システムの有効性を評価するための交通シミュレー

ションモデルを開発。これにより、トラフィックパフォーマンスの向上が期待されます。

博士課程の学生の良い点の一つは、旅行をしながら勉強できることです。初めての学術旅行で2年前に勉強合宿のため松山市へ行きました。昨年の6月には、第67回土木計画学研究発表会でポスター発表をするため、先生と一緒に福岡へ行きました。これは日本国内の学会ですので、論文は日本語でした。7月には、交通分野の学会で研究発表する機会に恵まれ初めて北米に行きました。1人で行ったので、少し心配でしたが、このような大きな学会に来られることがとても嬉しく感謝しています。学会に参加する以外にも、美しいモントリオールの町を散策したり、おいしい物を食べたり、公共交通機関を試したりできました。モントリオールの地下鉄は特別で、坂道を登るためのタイヤが付いています。9月には研究発表のため、マレーシアに行ってきました。ここでは、様々な大学から来た新しい友達や教授に出会いました。広島大学の元教官にも会うことができ、この学会に参加して本当によかったと思いました。

私は幼稚園のころから大学の先生になりたいと思っていました。学生の指導、研究、政府のプロジェクトへの参加等々、大学の先生として私にできる役割はたくさんあります。そして、私はインドネシアの交通システムをよりよいものにするために、貢献していきたいと願っています。



2月20日 国際ロータリー創立記念夜間例会

● ローターソング「四つのテスト」

● 副会長挨拶

皆さん、こんばんは。今日は、日ごろロータリーに関わりのある留学生や燦燦奨学生の方々も来ていただいています。皆さんと楽しく交流していただけたらと思います。夜間例会は皆さんが親睦を深めるためのものですので、席も決まったところでなくて、新しい会員さんもそれぞれ行き来しながら、これからの2時間、美味しく食べて、飲んで、楽しく歓談をしましょう。



● ご挨拶

◎ダイアナ・ヘルナンデスさん（元・長期交換受入学生）

フレスノから来ました。4年生です。今度の木曜日、台湾へ行ってよさこいのトラックチームで踊ります。とても楽しみです。

◎シティ ロダトゥル ファディラさん（米山記念奨学生）

最近研究室でよく働いています。博士論文を提出する必要があるので、データ分析と執筆で忙しいです。研究以外では、7月に高知でインドネシア文化にも取り組んでいます。委員会のメンバーとして、毎週会って準備の話し合いをしています。コロナパンデミック後、初めての高知での開催ですので、ワクワクしています。

◎岡本彩未さん（燦燦奨学生 高知工科大学 経済・マネジメント学群4回生）

4年間ご支援いただきありがとうございました。私は自分でラッキー人間だと思っています。人よりラッキーなことが積み重なって、こうしてご支援をいただいたりご縁の中でいろんなものを学ばせてもらいました。社会人になったら、運の部分のラッキーは、これからもくださいと神様にお祈りしながらも、自分の力でラッキーを引き寄せられる人間に成長していきたいと思っています。

でも、いっぱい困ることもあると思うので、皆さんにもたくさん力を貸してほしいし、助けていただきたいと思っています。ですから、もし私が皆さんの助けになれることがあれば、上手に使ってほしいし、高知県にもずっといたいと思っています。

学校では、明日卒業論文の発表をして、卒業は多分できます。4年間ありがとうございました。

◎宮本 奏さん（燦燦奨学生 高知大学 医学部看護学科4回生）

2月11日、看護師国家試験を無事に終え、久しぶりに勉強に縛られない日々を送っています。国家試験の合否は1カ月後に発表のため、なかなか気が抜けないところもありますが、最後の長い休みなので、いろいろ楽しいことをしようと考えているところです。

今回がこちらに参加する最後の会合になります。振り返ると、私が所属していた看護学科は、実習などにより長期でアルバイトなどができなかったので、皆さまからのご支援で授業料の一部に充てたり、実習で使う参考書を買ったり、あまり不自由を感じることなく看護の勉強に集中できたと感じています。

また、お金の面だけでなく、大学1年のときからこちらの会合にお招きいただき、普段交わることのない方々の講演などを拝聴し、本当に貴重な時間だったと思います。今までありがとうございました。

◎森 清忠さん（燦燦奨学生 高知大学 理工学部情報科学科3回生）

私も早期卒業を選択しているので、卒業論文が何事もなく通れば、今年で終わりになります。これが最後の参加になることを、私自身が願っています。今までの3年間の実績としては、早期卒業と研究活動です。学会発表が3回できて、大学の奨励賞とFIT2023という学外の奨励賞もいただきました。とはいえ、まだ査読付き論文を出していないので、卒業後も多少教授と関わりながら、査読付き論文を通すつもりです。

3年間、ご支援ありがとうございました。



● 記念講話

失ったものは何？

ネットヨク南国(株) 取締役相談役
パスト会長 横田 英毅 会員



バブルが崩壊したのが1990年、それから10年経って、失われた10年という言葉がいろんなところから聞こえてきました。私は10回ぐらい、主にテレビから聞きました。そして、失われた20年、これは7回ぐらい。最近では、失われた30年ということも4回前後聞きました。なぜ、こんな数を覚えているかというと、私自身は何を失ったのかその都度考えましたが、言葉を発した方は、どなたも何を失ったかはおっしゃいませんでした。

BS1で「欲望の資本主義」という番組があります。そこに登場したコメンテーターの方が「失われた40年は必ずやってくる」と言っていました。やはり何を失ったのかは明確ではありません。何となく経済的に困窮しているというイメージでは伝わってきます。GDPはどんどん下がって、中国に抜かれてあっという間に水をあけられて、最近ドイツにも抜かれました。世界競争力ランキングも相当低くて、ますます下がっていますので、失ったものが何なのか明確にする必要があるのではないかと、私は思いますが、皆さんはいかがでしょうか。

失ったものが何か、隠れている問題を発見しないといけない。失ったものが何かが分かたら、なぜそうなったのか、Whyを次に考えます。それが分かれば、どうしたらいいかを考えて問題解決につながっていきます。この辺りで思考停止が起こっていると私は考えました。

昔から「人生は問題解決の道のりなり、仕事とは問題解決の連続なり」という言葉がありますが、ところが、日本中、問題解決に取り組んでいる人はほとんどいないですね。一番、問題解決をしないといけない世界は政治の世界、次は教育の世界だと思うのですが、そこに問題解決はほとんどない。問題対処ばかりをしている。例えば虫歯をなくすのに、日本は歯医者さんを増やして、スウェーデンは歯科衛生士を増やした。結果、1990年ごろですが、80歳で残っている歯の数は日本が8本で、スウェーデンは20本。今は改善されて、日本ももっと多くなっていますが、問題への対処だけ考えた国と、解決を考えた国の違いです。

同じ物を見ながら相手の気づかない物を見つけるというのが、問題発見です。発見するから準備ができる。問題というのは理想と現状のギャップですから、理想が高ければ高いほどそこに大きな問題が横たわり、理想が低くても現状が極めて悪いと大問題になる。通常、どこの会社でも業

績の向上を目指しているし、働いている人は待遇改善を希望しています。それに対して、人間的成長、企業の成長を考えたら経営理念を浸透させていかないといけないし、組織風土、文化レベルを高めていかないといけない。

結果ばかりを追い求めて、プロセスを大事にしないと良い結果を手に入れることができないのは誰でも分かることですが、そのプロセスが準備ではないか。準備を一生懸命している世界が、働いている人が幸せを実感できている世界であって、業績ばかりを追いかけると満足はしても、一時的な満足で終わってしまいます。

今、日本が強いのは何でしょう。アニメ、日本食、観光産業、もう一つ、本当に強いのはスポーツではないでしょうか。スポーツの世界だけ、ちゃんと準備をしている。日本人は一倍努力をします。だから、プロセスをちゃんとやっているという意味において、スポーツが強いと言えるのではないのでしょうか。弱いものは教育に問題があるのではないか。社会に出るための準備は教育だと思いますが、ちゃんと準備ができていない。勉強が好きになるアプローチが必要で、そういう準備をしてから知識を増やしていくようにしないといけないのに、まるでできていない。

私たちの最大のビジネスパートナーはメーカーであるトヨタ自動車ですが、創業家の3代目の社長である豊田章男さんが、全国の販売店の若手経営者の集まりで「皆さんは、自分が死んだ後に、先代のおかげで今があると言われる人を目指してください」とスピーチをしています。良い会社になるための準備をしてくださいとおっしゃっているように聞こえます。

日本がすごく躍進した時代は、明治維新以降、2回あったように思います。日本人は謙虚で道徳的で勤勉だった。江戸時代からの教育水準の高さがあり、識字率は70%以上。大量生産適用型の教育など、恵まれた環境の中で成功するためには、ひたすら先進国の優れたノウハウを模倣、洗練すればよかった。それが大躍進につながっていった。

その後、日本人が失ったもの、それは「謙虚さ」ではないかと私は思っています。伊藤忠の岡藤さんは「謙虚というのは、強さと自信に裏打ちされたものでないといけない」とおっしゃっています。スポーツ選手でいうと、大谷翔平の謙虚さとバックにある強さと自信は見事だと思います。日本人の場合、謙虚というのは控え目、弱腰、謙遜、自信喪失、へりくだり、卑下というふうなイメージを抱いてしまうところに問題があるのかなと思ったりします。

謙虚さがなくなると、裸の王様になります。自分が見えなくなり傲慢になる。そして、向上心もなくなり寛容さがなくなる。感謝もしなくなる。自分を変えたくない、勉強しなくなる、人の話を聞かない。立場の弱い人に強く言うようになり、物事に批判的になったり、言い訳が多くなって、古い

パラダイムから抜け出せなくなったりするんじゃないか。やはり、謙虚さを取り戻さないとスタート地点に立てないのではないかと思います。

最近、大変革時代だと言われています。人・物・金の移動のなかった時代から、グローバル化で、人・物・金の移動が瞬時に行われます。人口が増え続けた時代から、減り続ける時代になってきた。誰かのマネをすればよかった時代から、誰もやっていないことをやる必要で経験豊富な人が尊重されなくなった。ハングリー精神や使命感は減退していつ、仕事中心から多様な生き方を求めるようになった。

私は、年功序列は悪いものとは思っていません。こういうことを考えて組織づくりをしないといけないという意味合いにおいては、年配の人は、今までの自分の経験とか知識に基づいたリーダーシップを取るということを、しない方がいい。では何をしたらいいのかということに関しては、時間の関係で、またの機会に。





◎2月17日(土) I.Mが開催されました

国際ロータリー第2670地区高知第1・第Ⅱ分区合同I.M
2024年2月17日(土) 於;三翠園



高知RCを代表して水谷会員の素晴らしいスピーチ (笑いを独占)

やはり最後の締めは我らの関バスタガバナー

関バスタガバナーの挨拶では全員で応援



◇ 例 会 変 更 ◇

高知北RC	3月4日	ロータリー休日(三)	高知南RC	3月7日	植樹例会(阪)
高知ロイヤルRC	3月19日	定款第8条第1節により休会(高)	高知南RC	3月21日	春分の日の週につき休会(阪)
高知中央RC	3月21日	春分の日の週につき休会(城)	高知西RC	3月22日	ロータリー休日(三)
高知北RC	3月25日	花見家族合同夜間例会(三)	高知ロイヤルRC	3月26日	花見夜間例会(高)
高知南RC	3月28日	花見例会(阪)	高知中央RC	3月28日→24日(日)	3RC合同花見例会に振替(城)

※例会会場ホテル：(三)…三翠園 (城)…城西館 (阪)…ザクラウンパレス新阪急高知 (高)…高知プリンスホテル

ニコニコ箱 【敬称略】 〈2月13日〉

竜口 淳也 先日は誕生日をお祝いいただきありがとうございました。

松田 忠久 先日、11日に黒潮カントリーで開催された33ゴルフで優勝させていただきました。同じ組で回った藤田洋子さんの正確無比なショット、尾崎さんのナイスショット時とミスショット時の感情の起伏の激しさ、水谷さんの深く考えないプレースタイルを見させていただきながら、楽しくラウンドすることができました。幹事の皆さまありがとうございました。ニコニコ。

◎2月11日(日) 33会第407回例会が開催されました

当日は天候もよくて最高のゴルフ日和でした。
参加者は、11名です。また、黒潮カントリーの八木支配人がオープン参加してくれて、3組目はレッスンを受けながらのゴルフとなりました。
場所は、黒潮カントリークラブ (太平洋・暖流コース)
優勝者は、みずほ銀行の松田さんでした。
次回開催は、高知ゴルフ倶楽部さんで3/10になります。



◇ 出 席 率 ◇					
	総数	出席	欠席	メイキャップ	出席率
2月13日	(-7)88	58	22	1	59%
1月30日	(-8)88	54	9	17	88%

◇ 出 席 率 ◇					
	総数	出席	欠席	メイキャップ	出席率
2月20日	(-9)88	48	22	9	72.15%
2月6日	(-5)88	60	10	13	87.95%

● 累計額 [2月20日現在]

ニコニコ箱	536,300円	ロータリー <small>さんさん</small> 燦燦基金	166,721円	ポリオ募金	308,700円
-------	----------	--------------------------------	----------	-------	----------

■次週のプログラム [3月5日]

ゲストスピーチ
 (株)ひととコーポレーション 代表取締役
 林 幹郎氏
 「変化する時代
 零細企業が社会にどう立ち向かってきたか」

創 立 昭和12年10月
 例 会 日 火曜日 12:30~13:30
 例 会 場 三翠園ホテル TEL(822)0131
 事 務 局 高知市本町3丁目3-39 高知放送南館8階
 TEL(824)8660 FAX(824)2529
 E-mail shinairc@joy.ocn.ne.jp
 HPアドレス <http://www.221.ne.jp/kochirc/>